

平成28年度：日の里5丁目自主防災訓練

平成28年9月10日（土）

知っておきたい 一次救命処置

心臓マッサージ AED

なぜ、住民による応急手当の知識・技術の習得が必要なのですか？

（助かるはずの命を救う救命処置の必要性）

- 救急車が来るまで待つだけ、病院や救護所まで運ぶだけでは助かりません。自然災害等の発災当初の混乱もようやくひと段落。しかしふと見ると、家族や隣近所の人が大ケガをしたり意識を失っている・・・。
- 災害発災時は、通信途絶や瓦礫・冠水など交通の遮断で、救急車などとても期待できません。助かるはずの命を救うのは、住民による自助・共助による応急手当です。

ただ待つて見ているだけでは、助かる命も助からない。

（何もしなければ、助かる確率は驚くほど低い。）

- 脳は心停止から3分で死に始める。→時間との勝負
脳は、心臓が止まると15秒以内に意識がなくなり、3～4分以上そのままの状態が続くと回復することが困難となります。
- 助かるはずの命を救うのは、そばにいる人の救命処置
（一刻も早い救命処置で、助かる確率は大きく変わる。）